

新まち通信

僕は窓を開けた

富士見町役場ロビーでミニ「慧星ラン」展を開催しました。

新しいまちづくり係が4月に発

足し、私たちが富士見町の乙事区内にある(株)ニチレイを訪れたのは6月の中頃でした。そもそも、(株)ニチレイが蘭の栽培をしていることは知っていましたが、胡蝶蘭とどこが違うのかはまったく知りませんでしたし、何故乙事を選んだのかもまったく理解していませんでした。スタッフの方に話を伺うと、慧星ランは寒さが好きな蘭で

あり、且つ、夏の暑さを嫌う植物だそうで、一般的に蘭の代名詞ともいえる胡蝶蘭とは正反対の性格だということがわかりました。つまり、夏涼しく、冬寒い富士見町の気候に合った植物だったので。

また、慧星ランの栽培自体が国内では珍しく、既に、富士見町が慧星ランの栽培「日本一」であることもわかりました。

(株)ニチレイはその蘭を富士見町の特産品として売り出すために、町内に蘭の栽培農家を増やし、慧星ランの産地化を目指したいというところで、知名度アップが当面の課題であることや栽培は順調に進んでいるものの、販路の拡大に非常に苦勞されていることがわかりました。

早速、私たちは販売していた

けそうな町内の施設をまわり、慧星ランの販売協力を依頼し、その結果パノラマスキー場とおっこと亭で販売していただけることになりました。

一方、蘭の鉢にも苦心しているというのでした。私たちが学校法人日本装飾美術学校を紹介し、生徒の作品を使って蘭を生け、展示会をしてみようということになりました。その結果、関係者のご賛同をいただきミニ「慧星ラン展」の開催が実現いたしました。

ロビーで開催されたこのミニ「慧星ラン展」は、役場を訪れた方々に非常に好評で、私たちは引き続きコミュニティ・プラザでもミニ「慧星ラン展」の開催を企画しています。

新しいまちづくり係では、これからも、さまざまな企画のラン展を開催し、まずは富士見町民の方々に慧星ランのことを知っていただき、知名度アップを図りながら、徐々に販路の拡大に結びつけばと考えています。

このコーナーに対する「ご意見ご感想」をお寄せください。

▼問い合わせ

総務課新しいまちづくり係

☎ 62・9328 (有)9328

FAX 62・4481

e-mail:

soumu@town.fujiminagano.jp

高原の風にふかれて

自分のスタンスで新規就農

富士見町の大きな課題に農業後継者問題があります。農地の荒廃や農村風景の変化が町のあちこちで見受けられます。先日若い農業者と懇談する機会に恵まれ、農業をめぐる多くの問題が話されました。

今回その中の一人半田航志さんを紹介いたします。どう見ても農業者の感じがなく、普通のサラリーマンの感じが漂う半田さん。京都出身の半田さんは山が好きで、長野県内の山に奥さんと登っています。元々サラリーマン生活が嫌だったので自分のペースで仕事ができる自営業を考えていました。子どもの頃から花を育てるのが好きで、おぼろげながら花の栽培もと考えていました。「信州の自然」、「自営業」、「花」三つのキーワード。伯父さんの勧めもあり思い切った農業に飛び込みました。ハケ岳農業実践大学の先生、富士見町の花弁農家、農協職員とやはり三人とのめぐり合いで、ここ富士見の地での新規就農となりました。富士見でカーネーション栽培6年目、手をかければいい物ができる。確かな手ごたえをつかんだようです。奥さんは二人の子どもの子育



カーネーション栽培に取り組む半田さん

て中、人手の確保も課題となりました。決して背伸びをせず、今のペースを守って暮らしていく事が大切、自分の工夫で時間を作り家族で海にも出かけました。

同世代の人々が家族を仕事の犠牲にしている姿を見て、生活は苦しいけれど朝も夜も子どもと一緒にご飯が食べられる今の生活に満足している。にこにこして仕事ができるかと語る半田さん。農家の生活に展望が見出せず、都会やサラリーマン生活に流れる富士見の同世代の若者。農業はそんなに甘くないと語る高齢者。新規就農者も壁に当たる時もあると思いますが、その持ついるスタンスの違いから以外とあっさり超えて行けるのかもしれない。



日本装飾美術学校でつくられた陶芸品(鉢)と慧星ランがとてもいい味をだしています。